

人にフィット 進化するフィット

先進の安全運転システム「Honda SENSING」(タイプ別設定)



軽快な走りと優れた燃費性能



HYBRID(2WD)は 37.2 km / ℓ



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

ホンダ

フィット

特集号

フィット純正用品

純正ディーラーオプションも充実している。新型フィットをアクティブに仕上げる「クロススタイル」では、ボディサイドモールやホイールアーチモール、切削デザインのアルミホイールなどトータルコーディネイトを提案。スポーティ志向の人向けにはフットワークを向上させるサスペンションキット、スポーティなカスタマイズシート、エアロフィンなど機能をもめるアイテム類が用意されている。さらに上質感を演出できるフロントグリルカバーやドアミラーガーニッシュ、肌触りのいいシートカバーに加え、本草製のセレクトノブ、足を休める助手席用オットマンなども用意され、クオリティを一段と高めることも可能。豊富にそろえられたキーカバーを遊び心でチョイスするのも楽しい。



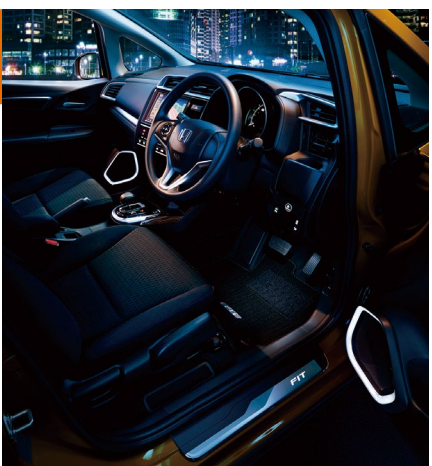
セレクトノブ



エアロフィン



フロントグリルカバー



インテリアイメージ



クロススタイル

フィット主要諸元表

	HYBRID		HYBRID・F		HYBRID・L Honda SENSING		HYBRID・S Honda SENSING		13G・F		13G・L Honda SENSING		13G・S Honda SENSING		15XL Honda SENSING		RS Honda SENSING		
駆動方式	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	
トランスミッション	高出力モーター内蔵7速 DCT						高出力モーター 内蔵7速 DCT (パドルシフト付)		5速 MT	CVT			CVT (パドルシフト付)		CVT		6速 MT	CVT (パドルシフト付)	
全長(mm)	3,990						4,045		3,990				4,045		3,990		4,045		
全幅(mm)	1,695								1,695						1,695				
全高(mm)	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525	1,550	1,525		
ホイールベース(mm)	2,530								2,530						2,530				
トレッド 前(mm)	1,480						1,475	1,480	1,490		1,480				1,480		1,475		
トレッド 後(mm)	1,470						1,465	1,470	1,480		1,470				1,470		1,465		
最低地上高(mm)	135	150	135	150	135	150	135	150	135	150	135	150	135	150	135	150	135		
車両重量(kg)	1,080	1,180	1,140	1,210	1,150	1,220	1,170	1,230	1,010	1,030	1,120	1,060	1,130	1,070	1,140	1,070	1,150	1,070	1,090
乗車定員(名)	5								5						5				
客室内寸法 長／幅／高さ(mm)	1,935/1,450/1,280								1,935/1,450/1,280						1,935/1,450/1,280				
エンジン型式	LEB								L13B						L15B				
エンジン種類	水冷直列4気筒横置(アトキンソン DOHC i-VTEC)								水冷直列4気筒横置(アトキンソン DOHC i-VTEC)						水冷直列4気筒横(直噴 DOHC i-VTEC)				
エンジン総排気量(ℓ)	1.496								1.317						1.496				
使用燃料種類	無鉛レギュラーガソリン								無鉛レギュラーガソリン						無鉛レギュラーガソリン				
燃料タンク容量(ℓ)	32	40							40						40				
エンジン最高出力(kW[PS]/rpm)	81[110]/6,000								73[100]/6,000						97[132]/6,600				
エンジン最大トルク(N・m[kgf・m]/rpm)	134[13.7]/5,000								119[12.1]/5,000						155[15.8]/4,600				
電動機(モーター) 型式／種類	H1／交流同期電動機								—						—				
電動機(モーター) 最高出力(kW[PS]/rpm)	22[29.5]/1,313～2,000								—						—				
電動機(モーター) 最大トルク(N・m[kgf・m]/rpm)	160[16.3]／0～1,313								—						—				
動力用主電池 種類／個数	リチウムイオン電池／48								—						—				
JC08 モード走行燃料消費率(km／ℓ)	37.2	29.4	34.0	28.6	34.0	28.6	31.8	28.0	21.8	24.6	20.2	24.6	20.2	24.2	20.2	22.2	19.4	19.2	21.0
最小回転半径(m)	4.9	5.2	4.9	5.2	4.9	5.2	5.2		4.7		4.9		5.2		4.9		5.2	5.2	
タイヤ(前・後)	185/60 R15 84H						185/55R16 83V	185/60 R15 84H	175/70R14 84S		185/60 R15 84H				185/60 R15 84H		185/55 R16 83V		
ステアリング装置形式	ラック・ピニオン式(電動パワーステアリング仕様)																		
主ブレーキの種類・形式 前／後	油圧式ベンチレーテッドディスク／油圧式リーディング・トレーリング																		
サスペンション方式 前	マクファーソン式																		
後	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	車軸式	ド・ティオン式	

メーカーオプションを組み合わせた場合、車両重量、燃料消費率は異なります。詳しくはお近くの販売会社にお問い合わせください。



フィット

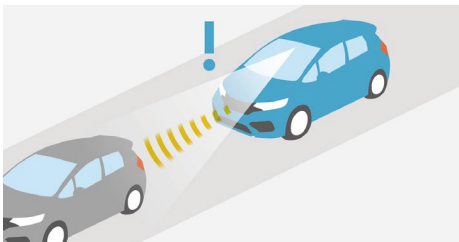
フロントグリルと LED ヘッドライトが一体の先進デザイン

安全運転支援システム

単眼カメラとミリ波レーダーを併用し、先進安全機能と運転支援システムをあわせ持つHonda SENSING(ホンダ・センシング)を搭載。ぶつからないための衝突軽減ブレーキは歩行者検知機能も備え、危険を感知すると表示やブザーでドライバーに警告。それでも操作がない場合は自動ブレーキを作動させて衝突回避を支援する。その他にも誤発進を防ぐ誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、路外逸脱抑制機能、車線維持支援システムなど全方向の安全性に加え、前車を検知して車間距離を保って走り続けられるアクティブ・クルーズコントロールも装備。一旦停止や速度規制など道路標識を認識し、マルチインフォメーション・ディスプレイに表示する機能も持ち、緊急時だけでなく通常走行時でもしっかり安全運転を支援してくれる。

1. ぶつからないために

衝突軽減ブレーキ(CMBS)



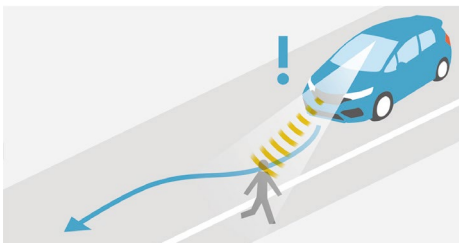
2. 飛び出さないために

誤発進抑制機能



3. 歩行者に配慮

歩行者事故低減ステアリング



ハンドリング、乗り心地の向上

フィットならではのシャキっとした走りに一段と磨きをかけるべく、ボディの要所を補強。前後ショックアブソーバーの取り付け部の板厚アップに加え、サイドシルなどに補強材を追加して全体の剛性を高めている。サスペンションはショックアブソーバーのバルブ構造を変更し、操縦安定性を高めながら乗り心地も向上。さらにパワーステアリングの取り付け剛性を高めて応答性を改善するなど、細かい改良によりハンドリングを向上させている。ハイブリッド車はブレーキペダルにリンク機構が追加され、踏み込みに対する制動力の急な高まりを抑えると同時に感覚的

なズレを解消。よりドライバーの意志に忠実に走るクルマへと仕上げられている。



ボディ構造モデル

静粛性の向上

ボディの剛性アップなどで振動や音の発生を抑える一方で、より上質感を高めるための工夫もなされている。防音や熱の侵入を抑えるためフロアに施すメルシートの厚みを3mmとし(従来は2mm)、ダッシュボード回りのインシュレーターや各部防音材なども見直されている。ハイブリッドSではフロントウィンドウに遮音ガラスを採用し、エンジンやトランスミッションのマウントも見直して振動吸収効果を高め、静粛性を向上。全グレードとも走行時の質感は大きく向上している。

開発者の声

Engineer's Voice

本田技術研究所
四輪R&Dセンター
フィット開発責任者

磯貝 尚弘さん



進化したパワートレイン

あつかいやすく燃費のいい1.3ℓアトキンソンサイクル・エンジン、パワフルでレスポンスの優れた1.5ℓ直噴エンジンと、1.5ℓアトキンソンサイクル・エンジンに電動モーター内蔵の7速DCT(デュアルクラッチ・トランスミッション)を組み合わせたハイブリッドと、3種類のパワートレインを用意。1.3ℓはCVTと5速MT、1.5ℓはCVTと6速MTがそれぞれ組み合わせられ、1.5ℓにはエキサイティングな走りが楽しめるRSも設定。エンジン本体にもさまざまな改良が加えられている。燃焼室をコンパクト化することなどで熱損失を減らし、ナトリウム封入バルブの採用でノッキングを抑制。ピストンなどの改良でフリクションも低減され、よりスムーズで効率のいいパワーユニットへと進化している。

まず2つのスタイルを用意したところを見ていただきたいですね。スタンダードモデルのまとまりのよさと、スポーティバンパーを備えるモデルの存在感がポイントになると思います。インテリアはオレンジやグレーのアクセントカラーを配して、よりクオリティを高めていますので、その仕上がりもぜひ実車で確認してみてください。ユーザー層の幅広いフィットですが、なによりもホンダらしいカチっとした走りやハンドリングのよさが持ち味だと思います。ぜひご自分でハンドルを握って、ホンダのDNAを感じていただきたいですね。

エクステリアデザイン

2種類の新しいスタイルで個性を主張する新型フィット。ロー＆ワイドのシルエットはそのままに、スタンダードモデルのフロントスタイルはグリルとヘッドライトの一体感が増し、インラインタイプのLEDヘッドライトが先進的な印象を与える。一方で上級モデルのS・Honda SENSINGとRS・Honda SENSINGは前後ともスポーティバンパーを採用し、全長がわずかに伸びるとともに、よりシャープで存在感のあるスタイルに仕上げられた。テールゲートスポイラーもSとRSはより大型のものが標準装備され、リアビューを

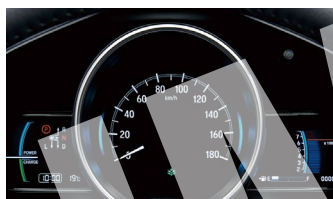


LED ヘッドライト(インラインタイプ)



インテリアデザイン

インテリアも一段とクオリティアップが図られている。ブラックを基調としながら、グレードごとにグレーやオレンジをアクセントに使ってプレミアム感やスポーティ感を演出。ドアトリムのデザインも含め、トータルにコーディネートされている。色と素材にこだわり、スエードを使ったシートやツートーンのステアリングホイールを配した「プレミアム・ブラウン・インテリア」もオプションで用意され、ワンランク上の室内に仕上げることもできる。ハイブリッド車のセレクトレバー回りはダークトーンでまとめられ、落ち着いた雰囲気となった。メーターは白基調のデザインとなり、運転中でも必要な情報を確実に視認できる。



メーター(ハイブリッド車)



ハイブリッド専用セレクトレバー



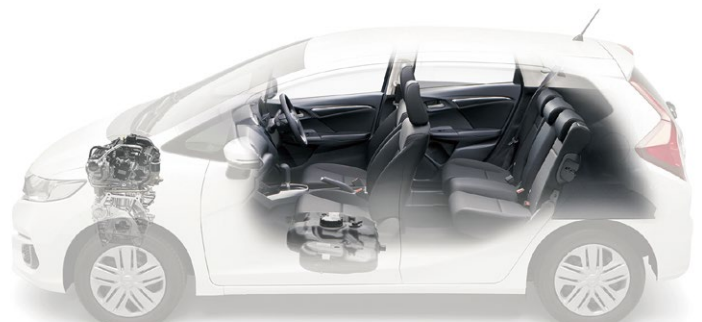
プレミアムブラウン・インテリア

パッケージ

人のためのスペースを最大とし、メカニズムのスペースは最小とする「MM思想」により、コンパクトカー随一の広い室内を誇るフィット。新型にもそのポリシーは受け継が



ロングモード



センタータンクレイアウト



ラゲージイメージ

常識やぶりに広い、独自のパッケージング



ルージュアメジスト・メタリック



ブリリアントスポーティブルー・メタリック



スカイライドブルー・メタリック



プレミアムアガットブラウン・パール



クリスタルブラック・パール



プレミアムイエロー・パールⅡ



プレミアムクリスタルレッド・メタリック



プレミアムホワイト・パールⅡ



ミッドナイトブルービーム・メタリック



ルナシルバー・メタリック



シャイニンググレー・メタリック



サンセットオレンジⅡ